Tokorozawa ものしりウォーキング㉖ 御幸町・坂稲荷

ファルマン通り交差点（通称：ねぎしの交差点）の近くに、坂稲荷神社があります。土蔵造りの覆屋は古いものではありませんが、中に納められている社殿は江戸時代のものです。文政３年（1820年）ごろに書かれた『秩父巡拝図絵』の「所沢宿略図」の中には、鳥居と朱色のほこらが描かれ「稲荷」と記されていてそれとわかります。

奉納された狐

現在の銀座通りを挟んで、ちょうど社の向い側に北へ伸びる細い道があり、その道を行くと東川に鳥居橋が架かっています。橋の名前は、かつてその道が坂稲荷の参道で、近くに鳥居があったことに由来します。

坂稲荷の境内はそう広くありませんが、敷地内の石造物からは、江戸時代の所沢周辺の交易のようすを知ることができます。正面の鳥居は文化５年（1808年）に奉納されたもので、製作者は引又（現在の志木市）の石工の星野勝五郎です。市域には、このほかに、同じ星野姓を名乗る引又の石工が製作した石造物もあります。

また、狛犬の代りに置かれた狐の像は、天保14年（1843年）のもので、台石には奉納者として坂稲荷界わいの商人や職人、旅籠屋や茶屋をしていた人たちの名前が刻まれています。親子の姿をかたどったこの狐は、水子（現在の富士見市）の石工の増田代三郎の作です。この人が手がけた石造物には、神明社の灯ろうもあります。

江戸時代、引又や水子は新河岸川の河岸場で引又河岸・水子河岸と呼ばれ物流の拠点となっていました。所沢に集まった農産物の多くは、河岸に通じる道（河岸街道と呼んでいました）を通って、河岸場から船で江戸へ運ばれました。その逆に、江戸からは肥料や日常必需品等が運ばれてきたのです。河岸場に石工がいたのは、石材の運搬を船に頼っていたことを示しています。これらのことから、河岸場と所沢の町場の間で人びとの行き来があったことがわかります。

坂稲荷では、毎年３月に初午の祭礼が行われ、覆屋が開かれます。境内を訪れると、そこだけがいつまでも変わらない空間のように思えてきます。

坂稲荷境内

はつらつ 野老っ子

石井　愼一さん
（山口在住）

地域との関係が大切です

皆さんは『樹木医』をご存知ですか。樹木医は、樹木の診断・治療、後継樹の保護育成等を行う「樹木のためのお医者さん」です。

今回は『樹木医』の石井愼一さんを紹介します。

「庭付きの家に住みたい」という石井さんの希望で、20年前、所沢に越してきました。現在その庭には、自然に近い状態で樹木が植えられています。たまに、小さな蛇が出てくることもあるとか。

石井さんは、練馬区の花とみどりの相談所で働いています。樹木医の資格は、仕事上の必要性から５年前に取得しました。今では、日本樹木医会で技術部会の部会長としても活躍しています。

「私は長崎の出身です。小さいころ自然に囲まれた所で育ったので、もともと樹木は好きです。だから大学は農学部を選びました」と笑顔で話すようすから、本当に樹木が好きなんだということが伝わってきます。

樹木医としての主な仕事は、練馬区内の名木の診断を行い、その治療法を持ち主にアドバイスしたり、区民から依頼を受けて樹木の診断や治療をしたりしているそうです。

「庭木等は枝が伸びたら手入れをしなければなりませんよね。樹木は、枝等を切ると木材腐朽菌が入りやすくなります。菌が入ると幹に空洞が生じ、ひどくなると倒れてしまいます。突然、樹木が倒れたら大変なことになるので、それを防止するために診断・治療を行います。本当は、枝等は切らないほうが一番いいんですけどね」と教えてくれました。また、全国各地の名木や巨樹等を残していくことも、樹木医の大切な仕事です。

樹木診断入門講座でのようす

市内では、今までに２件、樹木の診断依頼を受けたことがあるそうです。

「今は仕事が忙しいのでなかなか活動できませんが、今後は地域の方々との関わりを大切にし、その中で〝緑のリーダー〟になっていけたらと思います」と今後の抱負を話してくれました。

みんなの広場

▲晴天のもと1855人が参加した、第51回所沢市こども写生大会。どんな絵が描けたかな。
４月27日(土)／西武園ゆうえんち

▲会場は『幸せ』満開。花は人の心を和ませます。第４回国際バラとガーデニングショウ。
５月17日(金)～22日(水)／西武ドーム

▲一打一打に気合いを込めて…。熱戦が繰り広げられた「第47回所沢市高齢者ゲートボール大会」。
５月23日(木)／所沢航空記念公園運動場

▲病院の池でカルガモのひなが生まれました。元気に泳ぐその姿は、人々を勇気づけてくれます。
５月20日(月)／国立西埼玉中央病院

街かどズームイン Zoom in

▶皆さんからの「街かどズームイン」情報を募集▶採用者には事前に連絡します▶「誰でもエッセイ」ではテーマにそった投稿を募集▶はがきに300字以内で▶文章は添削あり▶掲載者には記念品を進呈▶次回のテーマは「雨」▶外出先で、突然雨に降られて困ったこと▶学校の帰り道、憧れの人と相合い傘で歩いた青春の１コマ▶雨が降ってくれたおかげで助かった、なんてこともありますよね▶皆さんの雨についての思い出や、体験談をお寄せください▶締め切りは６月14日(金)必着▶住所、氏名、年齢、電話番号を明記▶送り先：〒359-8501・並木１-１-１所沢市役所秘書広報課「みんなの広場」係

誰でもエッセイ　テーマ〝森〟

森のめぐみ、山のめぐみ

上安松・若林　悦子

今年も実家の弟夫婦から、森のめぐみ、山のめぐみの山菜が宅急便で届いた。コゴミ・フキ・タラの芽・ワラビなど、この辺りではパックに入って売られているものもある。他には、畑からのめぐみのアスパラも送られてきた。

畑のない都会生活の私たちには、森や山の香りのする食べ物は本当にうれしい。

弟の話によると、タラの芽を摘むときは、５、６本摘んだら、あと１本の芽は残しておくそうだ。次の年、森のめぐみ、山のめぐみがたくさん採れるように、村人たちは暗黙のルールを守っている。

都会から山菜を摘みに行かれる人も、ぜひ、そのようにしてほしいと思う。

祖母の思い出とともに

並木・横須賀　みどり

自分のことを男の子と思い込み、野山を駆け回って遊んでいた子どものころ。

いつものように、食べられる木の実を探しに、友達と木々をかきわけて森の奥へと入って行きました。すると突然、目の前に湖沼が出現しました。水草と周りの木々が水面に映えて、子ども心に「わあ、きれい」と、初めて見る景色にしばし見とれてしまいました。その時、沼の真ん中で「ピチッ」と水しぶきの音がしました。

「沼にはかっぱが住んでいるからね」と言っていた祖母のことばを思い出した私は、急いでその場を離れました。

今では、その山も森も高速道路と化してしまったけれど、私の心の中には優しかった祖母の思い出とともに、あのときの風景が一枚の絵として生き続けています。

森から街へ

東狭山ケ丘・伊藤　平八

私は、30年前に東京から所沢市に移ってきた。その時分は茶畑と森ばかりで、森の中に小さな一軒家を建てた。

春には子どもたちを連れて、森の中を一回りしてくるのが日課であった。山ゆりや春らん、山つつじの咲く山道を歩くのは、都会から越してきた私たちにとっては、無上のぜいたくであった。

当時は、朝起きて庭でくぬぎの木をゆすると、クワガタムシが落ちてきた。

しかし今は、両隣、後ろ、向こう三軒、それに続く家に囲まれた住宅街になっている。森の散歩が懐かしく、昔の面影を残す狭山湖の森を「いつまでも有れ」と願うこのごろである。

散歩道

山口・眞野　美紗子

私の住んでいる山口界わいは、貯水池があり、豊かな森に囲まれています。10年前、この地に引っ越して翌日の朝、鳥の声で目が覚め、感動の二日目でした。

西武ドーム裏から狭山湖畔霊園。密巌院前より坂を上り湖山荘前を通過…。自然歩道へ向かう２つのコースの散歩道は、森林浴のできる木漏れ日の美しい森の小径があります。

新緑の５月は、特に好きです。また、紅葉の秋、冬枯れの季節といろんな森の表情があります。今日あたりは、白いエゴの木の花が満開で、枝に粒状に並び木の形を教えてくれているようです。

もうすぐ旧暦の５月５日。笹の葉を摘んでちまきを作ります。

自然の中で学ぶこと

東所沢・勅使河原　亜矢

夫の仕事の都合で、結婚して６年の間に、いろいろな地域に住んだことがある。はじめは、神奈川に住んでいたが、東京、千葉、そして今は所沢に住んでいる。

所沢にきて思ったことは、緑が多く自然に囲まれている気がした。

子どもたちは、近所の公園でよく遊び、公園の先にある「森」にビービー弾を探しに行く。どうしてビービー弾を探すのか、親としては「？」であるが、娘は森へ行き、木やまつぼっくり、枯れ葉などを探すこともある。

子どもにとって、森こそ、教科書や本では教えてくれない自然のすばらしさだと思っている。

思い出の森

和ケ原・山ノ井　義治

今では、家庭燃料はガスが主流で、スイッチ１つで点火可能である。だが50年ぐらい前、故郷の九州ではまきが燃料のすべてだった。

まきを手に入れるために、父母は地主へいくらかの礼金を払い、休日には、なたやかまを持って森へ入った。下草を払い、雑木の枝を切り、朽木の幹を刻んだ。

それらを拾い集めて縄で縛るのが、いつも私たちの役目だった。集めたまきは、リヤカーに積んで持ち帰った。父母の額や背中は汗いっぱいだったのが、つい昨日のように懐かしい。

新聞紙をマッチで燃やし火種としてまきの上にのせ、母は頬を膨らませながら、かまどや五右衛門風呂の点火に苦労していた。

時々帰郷し、まきを拾った緑滴るあの森を見るつど、今は亡き父母のことを胸熱くほろ苦く思い浮かべるのである。

近所の森のちょうちょうたち

上安松・中林　正彦

ほとんど毎日、愛犬と散歩する森。小さな森だけど、すごい森。

15歳のころ、桜が咲く季節に、中津川渓谷へギフチョウをよく採集しに出かけた。それから45年、森でちょうちょうを観察するようになった。

今年の春、いろいろなちょうとあいさつすることができた。越冬したアカタテハ、羽化したてのルリタテハ、モンキチョウにツマキチョウなど。つい２、３年前には見当たらなかったちょうまで、「こんにちは」をしてくれる。

もう１つの近くの森には、６月になると、ミドリシジミ、アカシジミ、オナガシジミなどの、きらきら光ったちょうちょうも見えた。

ちょうちょうには、食草が大切です。この森にも、昔たくさんのカンアオイがありました。きっとギフチョウが飛んでいたと思います。モンシロチョウぐらいの大きさで、ミナミアゲハのようにきれいで、青と赤が紋になっていて、ゆっくり飛びます。タネツケバナがたくさんあるおかげで、ツマキチョウも飛ぶようになりました。

壮大な森

上安松・三村　絹代

４月、友人が長野に帰省しました。私も２、３日遅れて、黒姫の彼女の自宅にお世話になることに。10日ばかり田舎の生活を楽しんできました。

朝、目が覚めると、彼女はもう外で家の周りの雑草を刈っていました。露がついているほうがよく刈り込めるそうです。午後は、長靴を履いて山に出かけます。とても健脚な彼女にはついて行けませんが、ワラビやゼンマイ、タラの芽を袋一杯に摘んで午後は終わり、夜はそれらを料理して夕食に。

朝の風がさわやかで、空がとてもきれいです。日中は、ウグイス等もにぎやかに合唱しています。

満開の八重桜や山桜も森林に彩りを添えて、私の目を楽しませてくれました。雪を頂く山々が、まぶたに焼き付いています。

次回のテーマは「雨」です

広報テレビ番組　ご覧ください

■テレビ埼玉
所沢リポート
６月21日(金)／①午後５時30分～40分②午後10時15分～25分放映

■シティケーブルネット
広報ところざわ　テレビ情報館
６月20日(木)～／①午後１時55分～２時②午後９時55分～10時放映

リサイクルふれあい館　不用品ガイド

●**譲ります**　▽ハイベッド▽ドラフター▽FM多重放送ステレオラジオ▽パソコンラック▽システムラック▽衣類乾燥機▽ワープロ▽ベビーベッド▽ベビーバスケット▽幼児用三輪車▽ジャングルジム▽バイオリン▽英語教材（幼児～小学校低学年用）

●**求めます**　▽ソファーセット▽CDラジカセ▽シングルベッド▽A型ベビーカー▽卓球ラケット▽オーブンレンジ▽一輪車（小学校低学年向き）▽電動ミシン▽毛糸編機▽ミニ耕運機

受付方法　６月５日(水)から電話による先着順で紹介します。ただし、利用者は所沢市民に限ります。

休館日　月曜日、祝休日

申し込み・問い合わせ　リサイクルふれあい館（☎944-0008）